

うまい!

岩船米づくり情報 No. 9

平成 30 年 7 月
岩船農業振興協議会
村上農業普及指導センター

**こまめな水管理と病害虫(カメムシ類、いもち病)防除で
美しい穂、よい実りに仕上げましょう!**

◇7月25日現在の生育状況【普及センター調査ほこしヒカリBL】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)		葉色 (SPAD)		予想出穂期
		本年	指標比	本年	指標差	
山北/大 毎	5/12	86	109	32.9	+ 0.4	8月11日
朝日/川 端	5/15	84	106	27.9	- 4.6	8月9日
村上/山辺里	5/16	83	106	32.4	- 0.1	8月9日
神林/牛 屋	5/10	85	112	28.8	- 4.2	8月7日
荒川/名 割	5/12	85	106	34.7	+ 1.4	8月12日
関川/下 関	5/12	88	112	32.2	- 1.8	8月12日
平均	5/12	85	109	30.7	- 2.3	8月9日

※平均は、6地点の水稲作付面積に応じた加重平均

- 草丈：やや長い～長い ●葉色：やや淡い～淡い
- こしヒカリの出穂期は、平年より1日早い見込み

新潟地方気象台7月19日発表の北陸地方1か月予報によると、8月20日までの向こう1か月の平均気温は、高い確率が70%となっています。

しばらく気温が高い状態が続くと予想されることから、イネの栄養低下に十分留意し、水管理の徹底をお願いします。

1 出穂直前のもう一肥(ひとこえ)追加

7月13日から雨の降らない状態が続いています。さらに連日猛暑日を含む異常高温も続いていることから、イネの体力消耗も激しくなっています。

計画的に穂肥を施用出来なかったほ場や著しい葉色の低下が見られた場合には、出穂直前(走り穂)までに追加穂肥を実施しましょう。

出穂直前穂肥が必要なこしヒカリ
(判断時期は8月初め、出穂の6日前)

めやす	施用時期	穂肥施用量
SPAD33以下 葉色板単葉4.5以下	出穂3日前まで	チッソ成分 1.0 kg/10a

注) 葉色のめやすは、基肥や穂肥に有機入り肥料を用いた場合です。

簡易葉色板では、「適」よりもやや濃い程度でも追加穂肥が必要です。

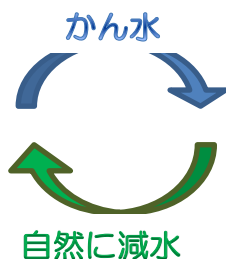
3割減々栽培の場合は、化学合成チッソ量の上限を超えないよう注意しましょう。

2 台風12号の接近に備えた水管理 ～出穂25日後まで「飽水管理」～

台風12号が接近し、29日頃に太平洋側から日本列島を横断し北陸に抜けるコースが予想されています。過去にこのコースをたどった場合、フェーンの被害が発生しやすいため、早急に湛水するなどの水管理を徹底してください。

- 出穂25日後頃（収穫の2週間前）までの飽水管理を行い、登熟の向上を図りましょう。
- ただし、
- フェーン現象やダシ風が予想される場合は、あらかじめ湛水して稲を保護しましょう。
- 輪番給水地域では、通水日を確認し、効率的な水管理に努めましょう。

飽水管理ってどんな管理？ 足跡に水がなくなったらかん水する管理です！



水分補給と
酸素供給、
両方大切。



3 カメムシ類・穂いもち防除の徹底を！ ～病害虫防除で美しい穂にしましょう～

(1) カメムシ類の防除

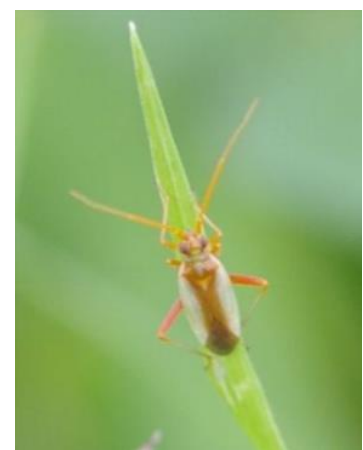
新潟県病害虫防除所の調査によると、下越地方におけるアカスジカスミカメ（通称アカスジ）の多発生が報告されています。

アカスジはほかのカメムシ類より本田侵入が遅いので、コシヒカリにも被害が及びます。

早生では2回防除、コシヒカリでも1回防除を確実に実施しましょう。

カメムシ類の防除（2回防除の場合）

回数	めやす	カメムシ成長段階
1回目	出穂期の7～10日後	成虫が本田侵入
2回目	1回目から7～10日後	ふ化し終わった頃



背中に赤い X マークが
アカスジカスミカメ

(2) いもち病

本年は6月下旬～7月上旬の降雨や夜間が高温であったため、各地で葉いもちが確認されています。現在は、高温と乾燥で発病が休止していますが、今後の降雨やイネの出穂に伴って、再び活発化します。

「葉いもち」が発生した場合は、「カメムシ防除」と併せて「穂いもち」防除を実施しましょう。

～用水は限りある資源、地域全体で大切に使いましょう～